

【実践報告3】

これからの時代に求められる資質・能力を育む学びの 在り方に関する研究

— 県立高等学校「総合的な探究の時間」の計画と実践 —

愛知県立新川高等学校

1 はじめに

本校は1986年に開校し、今年度で創立37年目を迎える。清須市をはじめとする「地元の高校」と位置付けられた本校は、学習と部活動の両立を目指す進学校であり、明るく朗らかで、真面目に努力できる生徒が多い。しかし近年、「主体的かつ積極的に活動する生徒が少なくなった」という声が職員から出てきており、本校の課題の一つとして挙げられている。そこで本研究の中で、先程の課題を解決し、新川高校が目指す生徒像を実現するために「総合的な探究の時間」（以下、「総合」とする）の内容を見直すこととなった。

本研究が令和2年度（以下、一昨年度）から始まり、初年度では、次年度の1年生の「総合」の内容の見直しを行った。それまでの「総合」では、「調べて発表する」といった内容が多かったため、本研究を踏まえて、「単に調べるだけでなく、そこから自身や地域の課題やその解決方法を考える」ことを通して「物事を自分事として捉える」といった内容に修正することとなった。2の実践内容では、主に「校内組織の構築方法」「生徒の活動内容の変化」について紹介する。

2 実践内容

(1) 「総合」に関する小委員会の組織について

本校では、一昨年度から内容を見直すために、年度途中で「総合」に関する小委員会を設立した。小委員会のメンバーは、校長、教務主任、進路主任、生徒会主任、そして、国語、地歴公民、数学、理科、英語の5教科から最低1名以上選出することにした（第1学年の教員が中心）。教務、進路、生徒会主任の選出理由は、本校の学習活動や進路選択、行事活動の現状を整理し、各主任の意見を参考にしなかったからであり、学年主任は、従来の内容に対する率直な意見を取り入れたいという理由であった。5教科から1名以上選出した理由は、活動内容に偏りが出ないように、さまざまな視点や考え方を取り入れたかったからである。なお、会の活性化を目指し、教科の代表メンバーは、フットワークが軽く、柔軟で、アイデア豊富な中堅以下教員を中心とした。初年度は、年度末までに7回ほど委員会を開催し、「総合」の問題点及び改善案が提示されるなど非常に有意義なものとなった。しかし一方で、授業後は補習授業や部活動指導等で一同が会する機会は少なかったため、メンバー全体で共有できなかった事項も散見された。

そこで、令和3年度（以下、昨年度）は、「常に全員が参集し、議論できた方がよい」という観点から、「総合」の会議を新設し、時間割の中に組み込むことを提案し、実現した。これにより、年間を通して実施した活動の反省や課題、次年度の内容の見直し等を明確化することが可能となった。前年度と異なる点は、メンバーに第2学年と第3学年からも一人ずつ選出したところにある。理由は、従来の内容で実施してきた教師の意見を参考にしたいと考えたからである。実際に、さまざまな意見を「総合」に取り入れたことで、1年生の「総合」は前年度以上に探究的な活動にすることができたという実感があったが、新しい課題も浮き彫りとなった。

その課題とは、会議の中で打ち出した方向性に対して、他の職員から消極的な意見が出るようになったことである。おそらく、新しいことを進めることに対する不安があるものと考えられ、他にも「学習と探究の違いが分からない」という声までも上がった。そのような状況のまま進めていくと、教員間で意識の差が出てしまい、生徒の活動にも影響が出る可能性もあったため、定期的に運営委員会や職員会議で活動内容とその結果を報告しつつ、「総合」の新たな在り方について浸透を図った。その結果、少しずつではあるが、教師全体に理解が広がっていった。

そして令和4年度（以下、本年度）は、会議メンバーの半数の入れ替えを行った。ねらいとしては、「総合」の趣旨の浸透だけではなく、会議そのものをより活性化させるためである。旧メンバーが、新メンバーとなった教員のサポートをしながら、運営の手助けに当たることで、昨年度以上に円滑に運営ができていく印象である。また、一部の教員への負担を軽減するために、学年へ内容を伝える担当者を各学年から選出して委員とし、より円滑に運営していく体制を構築することにした。その結果、会議のスタッフが前向きに取り組む姿勢となり、昨年度以上に円滑に運営ができていく印象である。

(2) 見直しを行った「総合」の内容について

見直しを行った本校の実践事例については、三つ紹介する。【資料1 「清洲城」と「朝日遺跡」でのフィールドワークの様子】

一つ目は、第1学年の生徒は、毎年、本校近辺に位置する清洲城と朝日遺跡においてフィールドワークを実施（資料1）しているが、昨年度から「歴史を調べて発表する」だけでなく、「清洲城や朝日遺跡からみる地域の課題と解決方法を考える」といった探究的な活動となるように工夫した。生徒の活動内容や感想等を見ると、自分事として探究しようとしている姿が伝わってきた。他の教員から



も同様の声があり、会議で議論して実施した活動は生徒に対しても意義深い学習活動となったと実感している。なお、本年度第1学年の地域探究については、清洲城と朝日遺跡の他、清須市役所が新たに訪問先として加わった。市役所には、本校の卒業生が多く勤めていることもあり、清須市の魅力や取り組んでいる活動等を中心に素晴らしい説明を行っていただき、生徒にはよい刺激となった。このように地域との連携も少しずつ広がっており、生徒にとっても身近な地域に触れることで、充実したフィールドワークが構築できつつあると考えられる。

二つ目は、本年度の第2学年が実施した取組である。昨年度第1学年で行った内容をより深めるため、株式会社マイナビが高校生向けに提供している学習プログラム「locus(ローカス)」を活用した（資料2）。

【資料2 動画視聴の様子】



について考える」等を学び、そして、第2学年の修学旅行で訪問する長崎市の課題とその解決方法や理想の地域について考える活動を実施した。生徒の経済的な負担はあったものの、教材を活用したことによる成果は大きかったように思う。また、外部教材を用いることにより、教師の準備にかかる負担が軽減されたことも事実である。

三つ目は、本年度の第1学年が行った「進路探究」の活動である。この回では、「全国にある4年制大学を知ろう」と題して、各グループでの探究学習を行った（資料3）。この取組でも、「大学・学部を調べる」だけとするのではなく、「調べた大学が、自分の進路選択にどう結び付くのか」というテーマを持たせながら、探究的な活動となるように実施した。進路探究は、まだ入学して間もない頃であったことから、はじめはどのように調査し、発表したらよいか戸惑う生徒が多かったが、自分の興味や関心のある学部や学科と関連をもたせながら、大学の魅力的な部分をアピールするといった形で発表し、他者と交流を図ることができ、例年よりも中身の濃い活動となった。

【資料3 進路探究の様子】



(3) 「総合」の効果検証

本年度の2年生を対象に、本校独自のアンケートを5件法（肯定、やや肯定、どちらでもない、やや否定、否定）で実施（令和5年1月）した（次ページ資料4）。まず、「Q1 『総合的な探究の時間』を1年間通じて、楽しく取り組むことができましたか」に対して71.8%（301名中216名）の生徒が「そう思う」「どちらかというと思う」と肯定的な回答をしている。そして、Q1に対して肯定的な回答した生徒の理由について、「周囲と協力することが楽しかったから」「みんなで話し合うことが楽しかったから」「今まで知らなかったことを知ることができたから」などの意見が主であった。一方で、「どちらともいえない」「どちらかというと思わない」と回答した26.5%（301名中80名）の生徒の理由としては、「内容が難しかった」「考えることが嫌い」といった回答が目立った。生徒によって、題材や設定難易度が高かったことが原因であると考えられる。

次に、「Q3 『総合的な探究の時間』を1年間通じて、さまざまな場面で、自身が主体的または積極的に取り組むことができるようになりましたか」に対して65.4%（301名中197名）の生徒が「そう思う」「どちらかというと思う」と肯定的な回答をしている。そして、Q3に対して肯定的な回答した生徒の理由について、「自分の意見を言えるようになったから」「自分から調べるようになったから」「友達とよく話をしたから」といった回答が多く、その中で「考える」という語句を含む回答が目立った。これはlocusの題材や教員が用意したオリジナルシートの内容が、地域の課題や解決策、なぜといった考える問いが多かったからと思われる。一方で、「どちらともいえない」と回答した人は、「できた時もあれば、できない時もあったから」「実感が湧かないから」などが多かった。

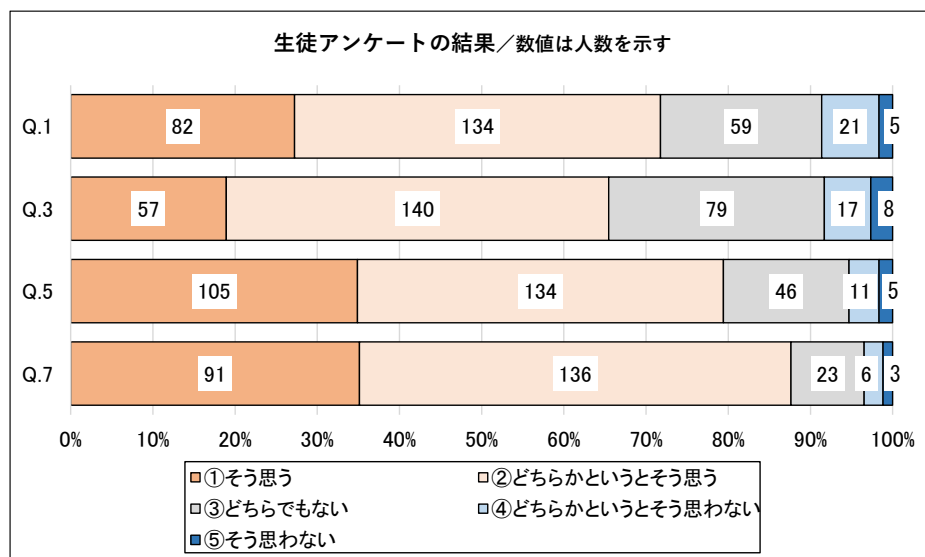
Q5、Q7は、1年生のときから取り組んできた変化を読み取るための質問項目を設定した。「Q5 1年生のときに比べて、地域や自身の課題について考えることができるようになりましたか」に対して79.4%（301名中239名）の生徒が「そう思う」「どちらかというと思う」と肯定的な回答をしている。そして、Q5に対して肯定的な回答した生徒の理由について、1年生のときと比べて、調べる、考える、書く、話すといったことが、できるようになったという回答が多く見られており、成長を感じている回答ではないかと思われる。一方、「どちらともいえない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答している生徒の理由を見ると、「実感が湧かない」が多く、自

分に自信がない生徒が自身の成長に懐疑的になってしまっていることが考えられる。

また、「Q7 1年生のときに比べて、地域や自身の課題について自分なりに解決策を考えることができるようになりましたか」という問いに対して88.7%（256名中227名）の生徒が「そう思う」「どちらかというと思う」と肯定的な回答をしている。そして、Q7に対して肯定的な回答した生徒の理由について、できるようになったという語句が非常に多く、自身の成長を実感している生徒が多いと考えられる。一方で、「どちらともいえない」「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答している生徒の理由を見ると、Q6と同様に「実感が湧かない」が多かった。

最後に「Q9 2年間の『総合的な探究の時間』を通して、身に付いた力は何だと思いますか。または何ができるようになりましたか」という問いに対しては、「考える力」「情報収集能力」「コミュニケーション能力」「話す力」など、これまでの質問項目に比べ生徒の回答はさまざまであった。生徒が「入学時に比べて、何かを身に付けた」という実感がある点で、この2年間の取組は、それなりの成果があったのではないのかと考えられる。

【資料4 2年生を対象とした本校独自のアンケート結果（令和5年1月実施）】



質問事項

- Q1 「総合的な探究の時間」を1年間通じて、楽しく取り組むことができましたか
- Q2 Q1の理由記述
- Q3 「総合的な探究の時間」を1年間通じて、さまざまな場面で、自身が主体的または積極的に取り組むことができるようになりましたか
- Q4 Q3の理由記述
- Q5 1年生のときに比べて、地域や自身の課題について考えることができるようになりましたか
- Q6 Q5の理由記述
- Q7 1年生のときに比べて、地域や自身の課題について自分なりに解決策を考えることができるようになりましたか
- Q8 Q7の理由記述
- Q9 2年間の『総合的な探究の時間』を通して、身に付いた力は何だと思いますか。または何ができるようになりましたか

3 成果と課題

これまでの活動から得られた変化としては、生徒にとって探究的な活動内容が増加したことが挙げられる。小委員会の発足やメンバーの編成の工夫、継続的な会議の実施により多くのアイデアが創出されたことがその理由であると考えられる。実際、本年度の2年生の感想を見ると、1年次に比べて、多面的・多角的な視点を踏まえた内容が書けるようになった。また本校の目指す理想の生徒像である「主体的かつ積極的に物事を行える人」という点においても、さまざまな活動の中で、その像に近づ

く生徒が増えたという印象がある。

この2年半の取組の中で感じた運営上における大きな課題の一つとして、全体を取りまとめるチーフ（以下、「総合」チーフ）への負担がどうしても大きくなるという点が挙げられる。私はこの2年間、学年主任として学校全体、学年、学級に携わりながら、「総合」チーフとして見直しを行ってきた。「総合」チーフとしてこの2年間の業務は、① 会議用のレジュメの作成や会議の進行、② 各学年の「総合担当者」との意見交換、③ 教務主任への連絡や意見交換といったものである。本校の場合は、大幅な見直しを行ったため、先の業務を行いながら運営することが困難であった。これを受けて次年度は、「総合主任」を創設する方向で現在検討している。現段階で、今年度まで会議メンバーであり、次年度第1または第2学年に所属する教員で校務主任や学年主任の職にない教師を候補者として調整しているところである。この選定に当たって大事なポイントとなるのは、この2年半の取組を理解しており、次年度への引き継ぎが可能な人物である。これらの条件を考慮して、次年度の総合主任を選出し、ともに「総合」の在り方について引き続き浸透を図っていきたいと考えている。

本校もよりよい「総合」となるように、組織作りから始まり、内容の見直しを行っている最中ではあるが、組織を構築したことで有意義かつ前向きな取組を行うことができている。組織の立ち上げから運営、そして授業に反映させるまでエネルギーは要するが、組織の構築は運営を円滑にする上で不可欠な要素であると言えよう。現在では、各学年担当者が理念を理解した上で運営を行ってくれるようになり、昨年度と比べて、自身の負担が軽減されたという実感もある。本校も未だ教師間には浸透していない部分はあるものの、以前に比べて生徒の探究活動が活発化してきているなど、変化を感じている。

最後に、本研究を通して感じたことは、教員側の変化や工夫次第で、生徒にとってより充実した探究的な活動になるということである。本校は全ての内容の見直しを行ったわけではないが、既存の内容に少し手を加えただけでさまざまな変化が見られた。全てを一新する必要はなく、育てたい生徒像に即して活動内容を考えることができれば、生徒は自然と育っていくことを実感した。「総合」の在り方を見直すことは、労力を要するが、確実に生徒に還元される。大切なことは、教員自身が「総合」を楽しむことである。教員が楽しむことができれば、生徒もそれを感じ取り、有意義な活動になる。それは普段の専門教科を教えることと何ら変わりのないことである。

【別紙 1 全体計画】

新川高等学校 「総合的な探究の時間」 全体計画

| 第1の目標 | 各学校における教育目標 |
|--|--|
| <p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしなが、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> | <p>校訓『つちかい かがやけ』に基づき、授業や部活動、行事を通して、心身を培い、自身の存在を輝かせる為に、以下の3つを育成する。</p> <p>① 身に付けた基本的な知識や技能を活かして、課題を解決し、社会貢献できる人材を育成する。</p> <p>② 自身の将来(目標・課題)を設定し、その将来に向けて積極的に取り組もうとする姿勢を育成する。</p> <p>③ 他者を思いやり、他者と協働する心を育成する。</p> |



| 各学校において定める 目標 |
|---|
| <p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域探究や横断的な学習を通して、基本的な知識や技能を身に付けるだけでなく、異なるさまざまな場面において知識・技能を適切に有効活用できるようになる。 <p>将来(目標・課題)に対する姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路講話を通して、自身の将来(目標・課題)を設定し、段階的(1年次:方向性を定める(文理選択), 2年次:高校卒業後の将来を定める, 3年次:定めた将来に対して取り組む)に明確化し、進路実現に向けて自ら努力できるようになる。 <p>心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究に対して前向きに取り組む、そのなかで失敗を恐れない行動力を身に付ける。 周囲の考えや行動に単に同調するのではなく、自らの意見や考えを持ち合わせながら協働する。 |



| 各学校において定める 内容 | |
|--|--|
| 目標を実現するにふさわしい 探究課題 | 探究課題の解決を通して育成を目指す 具体的な資質・能力 |
| <ul style="list-style-type: none"> 自分の住んでいる地域には、どのような諸課題や諸問題があり、それが自分の人生や将来にどう関わっているのか、またどのように関わってくるのかを、探究活動を通して考える。 自己の特性や適性を把握し、職業や学問に関する情報を収集し、整理しながら、自己の生き方を考える。 自分とは異なる価値観や考え方を多角的に捉え、協働・共生していく方法を考える。 | 知識及び技能 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 情報や資源を入手する為の多様なツール(道具)を知り、探究スキル(シンキングツール)を習得する。 多様なツール(道具)を場面に応じて使い分け、適切に利用する。 自己(将来)や身近な問題が自分とどのようにつながるのかを知る。 |
| | 思考力、判断力、表現力等 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 自己(将来)や身近な環境(地域)の諸課題について考え、得た情報や資源を基に諸課題を表現することができる。 自己と他者の違い(自己認識・他者理解)について考えることができる。 |
| | 学びに向かう力、人間性等 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 互いを尊重し、相互理解に努める態度を養う。 諸課題や諸問題について、周囲と協働して解決する態度を養う。 自身の課題を設定し、主体的に取り組む姿勢を養う。 探究活動を通して、自己の興味・関心のある分野を見つける。 社会人としての資質を身に付ける。 |



| 教科・科目を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力 | |
|---|---|
| 情報活用能力 | 言語能力 |
| <ul style="list-style-type: none"> 資料や文献、インターネット等から自身にとって必要な情報を適切に収集し、理解及び整理することができる。 基本的な知識を習得し、得た知識を別の形に変換・応用することができる。 得た知識や情報を読み取り、計算や分析ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> さまざまな文章を読み解く力を備え、言語を正しく用いることができる。 プレゼンテーションをする際に、他者が読みやすい、聞き取りやすい、分かりやすい言葉や表現で伝えることができる。 |

【別紙2 単元ごとの指導と評価の年間計画（第1学年における地域探究）】

単元ごとの指導と評価の計画シート

| | | | | | | | |
|--|-----------|--|----|--|-----|-------|------|
| 科目名 | 総合的な探究の時間 | 学年類型 | 1年 | 単位数 | 1単位 | 1校時時間 | 46分 |
| 単元名 | 地域探究 | | | | | 予定時間 | 11時間 |
| 単元の観点ごとの評価規準 | | | | | | | |
| 知識・技能 | | 思考力・判断力・表現力 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 清洲城や朝日遺跡に関する歴史的な事柄について理解している。【知識】 事前学習やフィールドワークで得た知識を基に、清須市の歴史や文化について理解している。 調べた内容から、必要な情報を取捨選択している。【技能】 | | <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークを通して、清須市や自身の課題をはじめ、自身の生活にどのように関わっているかについて考えることができる。【思考力・判断力】 自分で考えた課題や解決方法を文章として構成し、聞き手に分かりやすいように発表している。【表現力】 | | <ul style="list-style-type: none"> 事前学習やフィールドワークを他者と協働して、主体的に取り組んでいる。【主体性】 地域の課題が、自身にどう関わってくるかを主体的に考えようとしている。【主体性】 | | | |

| 小単元名 (時数) | ねらい・学習活動 | 学習状況の観点 | | | 評価方法 |
|--------------|---|---------|-------|-----|---|
| | | 知 技 | 思 判 表 | 主 態 | |
| 事前学習(3) | <ul style="list-style-type: none"> 各班で調べるテーマを設定する。 テーマに沿って、インターネットや図書室の本等を利用して、清洲城や朝日遺跡に関する事柄を知る。 | ○ | | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート |
| フィールドワーク(3) | <ul style="list-style-type: none"> ボランティアの方々の話を聞き、遺物を見ることで歴史的な内容を理解する。 歴史的資源から清須市の課題について考える。 | ○ | ○ | | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート 活動の観察 |
| まとめ・発表(5) | <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークで学んだ内容を整理し、地域や自身の課題、その解決方法について考える。 発表用の原稿を作成する。 | | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート 活動の観察 |

【別紙3 単元ごとの評価ルーブリック（第1学年における地域探究）】

総合的な探究の時間 単元ごとの評価ルーブリック

____年 ____組 ____番 氏名 _____

単元名と単元の目標

| | |
|---|------|
| 単元名 | 地域探究 |
| 清須市内にある歴史的資源（清洲城・朝日遺跡他）となる場所でフィールドワークを行い，清須市の歴史や文化について理解するとともに，清須市やその地域の課題について考察し，自身や自身の生活にどのように関わっているかを結び付けることができるようにする。 | |

観点別学習の状況の評価規準

| 観点の観点 | A (十分満足できる) | B (おおむね満足できる) | C (努力を要する) | 備考 |
|---------------|---|--|---|----|
| 知識・技能 | <u>フィールドワークを通して，事前学習で得た知識以上</u> に清須市の歴史や文化について理解している。 | 事前学習において，インターネットや書籍等で得た清須市の歴史や文化について説明できる程，理解している。 | 事前学習において，インターネットや書籍等で得た清須市の歴史や文化について <u>説明できる程，理解していない。</u> | |
| 思考・判断・表現 | 清須市や自身の課題について， <u>その解決方法も</u> 考えることができる。 | 清須市の課題や自身の課題について，考えることができる。 | 清須市の課題や自身の課題について， <u>考えることができない。</u> | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 清須市の歴史や文化について触れ， <u>その課題や解決方法を主体的に考えようとしている。</u> | 清須市の歴史や文化について触れようとしている。 | 清須市の歴史や文化について <u>触れようとしない。</u> | |

単元の振り返り

| |
|--|
| |
|--|